

組織目標評価報告書(2019年度)

5

部局名:

理学部

部局長名:

富岡 憲治

目標・取組		目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域		教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
1. 入試の実施状況:H31年度に実施した前期日程試験の配点の変更に伴う志願者の動向を調査・分析するとともに、今後の入試の在り方について検討する。志願者確保のため、効果的広報活動を展開する。	24-1,2	1. 平成31年度に実施した前期日程試験について志願状況を精査するとともに、オープンキャンパス、入試説明会、高校生向け講義ビデオ、広報誌等を通して、志願者増加のための広報活動に努力した。
2. 教育の実施体制 ・質の高い教育を推進するため、「教育の質保証」に関するPDCAを組織的に実施するための体制を整備するとともに、優れた教員に対する表彰制度(理学部教育貢献賞)を継続実施する。 ・2年次終了時および卒業生の内の成績優秀者に対して理学部長賞を授与する。 ・自主学習室やアカデミックアドバイザーアシスタント制度を継続し、自主学習と理解度の向上を図る。	15-1 2-1, 7-1	2. 教育の実施体制について ・AI・データサイエンスの基盤を担う数学・物理学を身に着けた人材の社会的需要の高まりに対応し、3年次編入学に「数理・物理人材育成プログラム」の設置による10名の定員増を計画した。 ・「教育の質保証」に関するPDCAを組織的に実施するため、新たに岡山大学理学部教育評価委員会を設置し、内規を整備した。2月に外部評価委員3名(学外2名、学外1名)を加えた教育評価委員会を実施し、理学部の教育の実施状況、今後の課題などを精査した。 ・教育で優れた実績を上げた教員2名に、理学部教育貢献賞を授与し、より一層の教育の活性化を図った。
3. 教育方法・内容について ・最先端研究やSDGsへの取り組みを反映させた学部教育を検討し、教育の改善に努めるとともに、フロンティアサイエンティスト特別コースを維持し、優秀な学生に対しては早期に先端的研究に触れ、先取り研究を通して自ら研究・発表する機会を与える。研究者、教員、一般職等、学生の多様な志向性に対応した教育プログラムを検討する。FlexBMDコースなどを利用した大学院博士前期課程との接続を進める。 ・理学部附属臨海実験所は、従来の実習等に加え、ロボット工学など異分野も包括する研究直結型実習を実施する。英語版臨海実習書を出版する。 ・SGUの計画推進のために外国人留学生の受け入れ目標数、および日本人学生の海外への派遣目標数を実現するための制度について検討を行い実施する。	1-1, 2-1, 3, 3-1, 11-1 6-1	3. 教育方法・内容について ・最先端研究やSDGsへの取り組みを反映させた学部教育の実施を推進し、教育の改善に努めるとともに、フロンティアサイエンティスト特別コースを維持し、優秀な学生に対しては早期に先端的研究に触れるとともに、サイエンスインカレへの参加を支援した。 ・研究者、教員、一般職等、学生の多様な志向性に対応した3つの教育プログラムの実施に向け準備を進めた。 ・3、4年次生を対象とした大学院進学説明会を実施し、大学院博士前期課程との接続を進めた。 ・理学部附属臨海実験所は、異分野も包括する研究直結型実習を展開するとともに、英語版臨海実習書を出版した。 ・SGUの計画推進のために、上海研修、化学分野の国際ワークショップなどの事業を実施した。一方で、計画していたハワイ実習はコロナウイルス感染症への対応のため、やむを得ず中止した。
4. 教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について ・学部教育の質保証のため、カリキュラムや授業内容の検討を引き続き行うとともに、学生自身が成果を実感できる仕組みを検討する。 ・進学・就職のための理学部独自のセミナーを開催する。	5-1, 8-2, 12-1 22-1	4. 教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について ・学部教育の質保証のため、カリキュラムや授業内容の検討を引き続き行うとともに、学生自身が成果を実感できる仕組みについて、検討を進めた。 ・進学・就職の支援のため、大学院説明会、就職に関するセミナーを開催した。
②研究領域		研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
1. 研究の実施体制ならびに実施状況 ①研究支援の重点化 ・現在の優れた研究を継続的に発展させるために研究推進経費の配分を行うとともに、卓越する研究を実施している個人あるいはグループを支援する。 ・今後発展が期待される基礎研究、新分野の創成を目指す研究、SDGsに貢献する研究を積極的に推進・支援する。 ・研究に専念できる環境を維持し、本学および理学部の特色である異分野融合を推進し研究力の向上を図り、「実りの学都」の形成を進める。 ②各研究分野におけるトップジャーナルへの論文投稿を強化する。 ③国際共同研究を促進するために、教員の海外派遣及び外国人研究員の滞在を推奨、支援する。	27-1 31-1 27-1 36-1	1. 研究の実施体制ならびに実施状況 ①研究支援の重点化 ・現在の優れた研究を継続的に発展させ、卓越する研究を実施している個人あるいはグループを支援するよう努めたが、限られた予算のため十分な経済的支援はできなかった。今後の課題である。 ・今後発展が期待される基礎研究、新分野の創成を目指す研究、SDGsに貢献する研究に対して、WT助教の採用、テニュアトラックジュニア助教の採用を進めるなど、積極的に推進・支援を進めた。 ・研究推進の強化を前提に理学部2号館の改修案を策定するなど、研究に専念できる環境を維持し、本学および理学部の特色である異分野融合を推進し研究力の向上を図り、「実りの学都」の形成を進めることに努めている。 ②各研究分野におけるトップジャーナルへの論文投稿の強化を進め、目標をやや上回る182件がQ1ジャーナルに掲載された。
2. 研究資金の獲得状況 ①科研費申請状況を把握し、申請を促進・支援する。 ②科研費など競争的資金の採択率及び獲得金額を増加させるため、申請書の事前チェックなどの支援を行う。	38-1 38-1	③教員の海外派遣及び外国人研究員の滞在を推奨、支援することにより、教員の研究スキルの強化および国際共同研究の促進を図り、国際共著論文数は昨年と同数の高水準を維持した。
3. 共同利用拠点における状況 ・理学部附属臨海実験所は、ハブ研究直結型の教育関係共同利用拠点としての機能強化を図るため、国際的・異分野融合的な多大学連携事業を推進する。	11-7, 31-1	2. 研究資金の獲得状況 ①全学科研費ワーキングの協力を得て、科研費申請状況を把握し、申請の促進に努めることにより、申請件数が前年比3件増となった。 ②科研費など競争的資金の採択率及び獲得金額を増加させるため、申請書の事前チェックなどの支援を実施した。
4. その他 ・異分野基礎科学研究所と連携し、異分野融合研究を進める。	31-1	3. 共同利用拠点における状況 ・理学部附属臨海実験所は、国際的・異分野融合的な多大学連携事業を推進し、ハブ研究直結型の教育関係共同利用拠点としての機能強化を図った。 4. その他 ・異分野基礎科学研究所とも連携し、異分野融合研究を進めている。
③社会貢献(診療を含む)領域		社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
1. 地域社会との連携、社会貢献について ・公開講座・出前授業・研究室公開などを積極的に行い、地域貢献と科学普及に貢献する。 ・岡山県教育委員会理科部会、同数学会などの行事に積極的に関与し、理学分野において県下の高校との連携を深める。 ・スーパーサイエンスハイスクール(SSH)における研究指導、課題研究発表会、運営に積極的に参画し、高校生の理科と数学への関心を高めることに協力する。 ・理学部附属臨海実験所は玉野市などと地域社会貢献・異分野融合型の海洋教育を行う。さらに全国臨海臨湖実験所のハブ拠点として、生物学と情報学の超分野研究教育RinkaiHackやSDGs関連の連携事業を実施する。	47-1 48-1,2 49-3 48-2, 49-3	1. 地域社会との連携、社会貢献について ・公開講座・出前授業・研究室公開などを積極的に行うとともに、地域小中学生の訪問も受け入れるなど、地域貢献と科学普及に貢献することに努めた。 ・岡山県教育委員会理科部会、同数学会などの行事に積極的に関与し、理学分野において県下の高校との連携を一層深めた。 ・スーパーサイエンスハイスクール(SSH)における研究指導、課題研究発表会、運営に積極的に参画し、高校生の理科と数学への関心を高めることに協力した。 ・第17回高大連携理数科教育研究科・第20回岡山県理数科数系コース課題研究合同発表会に理学部から5名の教員が参加し、数学・理科に関する発表について講評および評価を行い、高大連携の一層の促進を図った。
2. 国際交流・協力について ・国際交流(国際ワークショップ、エラスムスプラス)や協定締結を前提とした招聘などに対する支援を実施する。 ・理学部附属臨海実験所は国際共同加速基金などを背景に国際事業を実施する。	51-1,2, 52-1,2 51-1	・理学部附属臨海実験所は玉野市などと地域社会貢献・異分野融合型の海洋教育を行うとともに、全国臨海臨湖実験所のハブ拠点として、生物学と情報学の超分野研究教育RinkaiHackやSDGs関連の連携事業などの実施に努めた。 2. 国際交流・協力について ・国際交流(国際ワークショップ、エラスムスプラス)や協定締結を前提とした招聘などに対する支援を進め、チュロンコン大学からの訪問、西安交通大学との交流協定締結などを進めた。 ・理学部附属臨海実験所は、ユネスコチェアの副チェアや、国際共同加速基金などを背景にハワイ大学との海洋に関連したSDGs事業の協力強化など国際事業の実施に努めた。
④管理運営領域		管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
1. 部局運営体制の改善強化:教授会を通して、大学・学部の抱える課題の共有を図る。また、構成員の負担が軽減されるよう業務内容の見直しと業務の効率化を図り、教員の研究時間の保持に努める。	68-1 72-1, 85-1	1. 学科長会・教授会を通して、評議会・部局連絡会等での議事内容を報告し、大学・学部の抱える課題の共有を図った。特に、大学と文科省との徹底対話のために整理すべき問題・課題について、共有し、学部のあるべき姿の議論を深めた。一方で、構成員の負担が軽減されるよう業務内容の見直しと業務の効率化を図り、教員が研究時間を保持できるべく努めた。
2. 部局組織の活性化: 教員活動評価による個々の評価を適切に行うとともに、優れた研究成果や特徴的な講義などを積極的に学内外に公開し、切磋琢磨しつつ部局内の活性化を図る。	40-1,70-1 82-1	2. 部局組織の活性化: 教員活動評価による個々の評価を適切に行うとともに、優れた研究成果や特徴的な講義などをプレスリリースや教育研究会等を通して、積極的に学内外に公開し、切磋琢磨しつつ部局内の活性化を図った。
3. ダイバーシティの推進: 女性教員や外国人教員の採用を促進する。	89-1, 91-1	3. 生物学科でのWTT助教から常勤准教授への採用、物理学科でのWTT助教の採用、テニュアトラックジュニア助教による女性教員や外国人教員を採用を進め、ダイバーシティの推進に努めた。
4. 効率的・戦略的な予算配分・執行: 学部および大学院への入学志願者確保のための広報活動、研究支援、学生支援等へ、バランスを取りつつ効果的に予算を配分する。	90-1	4. 予算については削減に努めるとともに、学部および大学院への入学志願者確保のための広報活動、研究支援、学生支援等へ、バランスを取りつつ効果的に配分することに努めた。
5. 安全衛生に対する配慮: 安全衛生委員会を通じて、安全安心な教育研究環境の維持を図る。一方、構成員の健全な就労環境・健康維持にも配慮する。	43-1, 88-1	5. 安全衛生委員会を通じて、安全安心な教育研究環境の維持を図るとともに、構成員の健全な就労環境・健康維持にも努めた。PCB廃棄物の紛失事故があり、保管体制の強化を行った。
6. 情報セキュリティの確保: 学生、教職員に対する情報リテラシー教育を徹底し、情報セキュリティや情報コンプライアンスの意識をさらに向上させる。	92-1, 93-1	6. 学生、教職員に対するe-learningによる情報リテラシー教育を徹底するとともに、会議等を通じて情報セキュリティや情報コンプライアンスの意識をさらに向上させることに努めた。
7. 施設整備の推進: 異分野基礎科学研究所の新棟建設に協力するとともに、理学部2号館の改修、およびスペースの有効利用を検討計画する。		7. 異分野基礎科学研究所の新棟建設に協力するとともに、理学部2号館の改修、およびスペースの有効利用に向けて計画の立案を行い、概算要求に向けた準備を進めた。
8. 法令遵守の徹底: 法令遵守に関するセミナーを全教職員に受講させる。		8. 法令遵守に関するセミナーを全教職員に対して実施するとともにe-learningによる受講を徹底した。
9. 2020年度に実施される第3期中期目標期間評価【暫定】に向けて、教育活動及び研究活動の状況の分析項目についての確認・準備を行う。		9. 第3期中期目標期間評価に向けて、教育活動及び研究活動の状況の分析項目について現況調査票の作成を進めた。